

7/19

漆のごとく深い音色に

村上木彫堆朱スマートフォン用スピーカー完成報告会（市役所）

村上堆朱事業協同組合と山新林業とのコラボレーションとして試作と改良を重ねてきたスマートフォン用スピーカーが完成し、両者が市長に報告を行いました。

製品は、堆黒で龍の彫刻のものと堆朱で桜の彫刻の2点を商品化。また、記念品用にハマナス彫刻とトキの彫刻も商品化しました。

木地は、県産材の朴木で、山新林業が全面的にバックアップ。生産する上で一番懸念される安定供給が確保されました。

経年変化も楽しみ、インテリアにも最適。スマートフォンによるオンライン通話などにも使用できることから、コロナ禍での需要も見込んでいます。



▲海外への輸出も視野に

7/24

絶滅危惧種も発見!

イヨボヤ会館、親子による「種川水中生物探検隊」を開催（三面川種川）



▲石の下や草の根っこを探る参加者

夏休みを迎えた子どもたちがわくわくする企画をと、講師に自然観察指導員の富樫繁春氏を招き、イヨボヤ会館主催の「種川水中生物探検隊」が行われました。

初めに、講師から生物採取のポイントや注意点を聞き、参加した児童11人と保護者7人は、早速タモ網を片手に種川へ。モクスガニやスジエビ、ハグロトンボやカワトンボのヤゴのほか、絶滅危惧種のトミヨやスナヤツメも採取できました。

採取した水中生物は「種川の生きものポケット図鑑」でそれぞれを分類して観察。子どもはもちろんのこと、保護者も童心に帰って川遊びを堪能しました。

7/27~30

園児たちが創り出す宇宙

高南ギャラリー展（高南保育園）

高南保育園では例年、園内に作品を展示する「作品展」を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、昨年度から「高南ギャラリー展」として展示方法を変更し、園児を送迎する保護者が作品を見られるように、玄関に展示するようにしました。

今年のテーマは「宇宙」。園児それぞれが作り出したユニークな小宇宙を目の当たりにした保護者は目を細め、担当する先生は、「コロナ禍ですが大きな夢を持ち、保護者の皆さんや地域の方々に元気を発信できれば」と話してくれました。



▲園児が作った作品の数々

8/3~4

子どもたちの手作り夏祭り

楽しい夏祭りごっこ（向ヶ丘保育園）



▲魚釣りで景品をゲット

向ヶ丘保育園で2日間にわたり「夏祭りごっこ」が行なわれました。

初日は、「ワッショイ! ワッショイ!」とかげ声を出し、元気よくおみこしの曳き回しを行いました。このおみこしは園児全員で作成したもので、キャラクターの絵を貼ったり、飾り付けをしたりと、園児たちが工夫を凝らした可愛いおみこしになりました。

2日目には、魚釣りやくじ引きなど、年長さんが順番に出店の店員さんを務め、ほかの園児たちはお客さんとして出店めぐりを楽しみました。年長さんが景品のおもちゃの使い方を年少さんに教えてあげるなど、ほほ笑ましい場面も見られました。



8/4

市政への関心を高め、市民としての意識を育てる 市内めぐりと市長さんと語る会（荒川地区公民館）



▲市長と金屋・保内小学校5・6年生で記念写真

荒川地区青少年育成市民会議主催による荒川地域の小学校5、6年生を対象とした市長との懇談会に、金屋・保内小学校児童23人が参加しました。

このイベントは、市長から市政の話を聞いた後に児童から意見や質問を行うもので、市政への関心と市民としての意識を高める目的で開催しました。児童は積極的に挙手し「どんな時にやりがいを感じますか」など、さまざまな質問が上りました。

市長との懇談の後は、ラベンダー石けん作りやまが玉作りを通し、金屋・保内小学校5、6年生の友好を深める時間を過ごしました。

8/7

夏といえば海、キャンプ、いや山焼きだ！ 山北の夏の風物詩「山焼き」（山北地域）

8月初旬、おいしい赤かぶ作りには欠かせない「山焼き」が山北地域各地で行われ、その炎が夜空を紅く染めました。

荒川地内の山焼きは、杉を伐採したおよそ0.8ヘクタールの山の斜面で行われ、斜面上部から周りの燃え具合と合わせてゆっくりと火を降ろし、およそ6時間で山焼きが完了しました。春先から行われた「ナギノ（杉の葉が燃えやすいよう乾燥させる作業）」は大変な作業でしたが、山焼きをすることで虫が付きにくく、肥料の要らないおいしい赤かぶが収穫できます。

収穫は10月上旬から。漬物などに加工された色鮮やかな赤かぶは、長い冬の間、山北地域の食卓に彩りを添えてくれます。



▲炎を操り斜面をゆっくり降ろします

8/7

自然とふれあい郷土の良さを伝える 荒川と里山と田畑のめぐみ体験（神林地域）



▲放された鮎を皆で捕まえました

今回で15回目となる「荒川と里山と田畑のめぐみ体験」が開催されました。

参加した子どもと保護者28人は、普段聞くことのできない清流「荒川」の水質調査や生態系などについて、羽越河川国道事務所職員や関係者から話を聞き、荒川の魅力について学びました。

また、水辺の楽校では、水遊びができる小川に100匹ほどの鮎を放し、鮎のつかみ捕り体験を行いました。最初はおっかなびっくり鮎を触っていた子どもたちも、次第に上手に捕まえられるように。自然に触れ合い、参加した子どもや保護者たちは、楽しい夏の思い出づくりができました。

8/9

雑念の無い、無念無想の境地を体感 子ども坐禅会を開催（岩沢集落）

岩沢集落の医泉寺で、集落の子どもを対象にした子ども坐禅会が行われました。

参加した22人の子どもたちは、あぐらをかき、姿勢を正して精神を統一。静まり返る本堂に、心を整えるための警策（修行者の肩や背中を打つ棒）を打つ音だけが聞こえました。その後に行われた行茶（お茶を行じること）も大切な修行の一つ。声を出さずにお茶とお菓子をいただき、一つのことに集中する精神を学びました。

最後は、なすやきゅうりを牛や馬に見立てた精霊馬や朝顔などの下絵に、折り紙を使った「ちぎり絵」作り。見守っていた保護者も加わり、普段とは異なる時間を楽しみました。



▲静まり返る本堂に響く警策の音